

## 東京バプテスト神学校ミッションステートメント (20/12/11 理事会承認版)

「こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆきます。」(エフェソ 4:12)

### 序 文

私たち東京バプテスト神学校は、1962年に信徒伝道者を養成することを目的として東京地方バプテスト教会連合の「東京バプテスト福音宣教学院」として発足し、1986年にバプテスト連盟北関東地方連合、神奈川バプテスト連合も設置者として参加する三連合立神学校となった。以来、当神学校は日本バプテスト連盟と地方連合、諸教会・伝道所、後援会の皆様の祈りと財政的・人的支援を受けて、連盟諸教会の課題に応じて、協力伝道を共に担い、イエス・キリストの宣教の業に仕えている。

私たち東京バプテスト神学校は、イエス・キリストを主と信じる信仰に立ち、神の言葉である聖書にその基礎を置き、バプテストの信仰と理念に基づいて、総合的な神学教育に当たる。

### 使命と目的

当神学校の使命と目的は、その神学教育を通して教会の働きを担う信徒および教役者を世に送り出し、もって日本バプテスト連盟諸教会の協力伝道を推進していくことである。

#### (1) 広範な分野にわたる神学教育の実施

教会を形成する個々人の信仰告白を、より確固たるものにするために①聖書神学 ②組織神学 ③歴史神学 ④実践神学の各分野にわたって、講座を充実させ、専任の教師を確保する。また、神学は「教会に仕える学である」との理解に立ち、実践神学の分野の充実のため、「神学科」と並んで「教会教育科」「教会音楽科」を設ける。更には変化する社会に在って多様性と人権に配慮する神学の視点を重視する。

#### (2) 練達した信徒、働き人の育成

教会の働きは多様化している。バプテスト教会においては教会形成における信徒の参与は必須であり、期待されている。現代の教会に求められている働きを見定め、練達した信仰者を養い、必要な職務を学び、教役者(牧師・主事等)とともに教会に仕えていく信徒を育成する。その為に「本科」及び「信徒リーダー養成コース」を設ける。

#### (3) 教役者養成

当神学校は堅固な献身の思いをもって主に仕える伝道者、教会の指導者となる教役者(牧師、主事等)を世に送り出す。その為に最低2年間の「専攻科」を設け、神学の学びと同時に伝道者に求められる総合的な力を身につける期間とする。

#### (4) 信徒および教役者の継続教育、研修の実施

当神学校は、全ての信仰者(信徒および教役者)の継続教育、研修を推進する。

#### (5) 諸教会の協力伝道の推進

各地方連合には、さまざまな悩みや課題を抱えている教会・伝道所が存在する。それらの教会・伝道所の重荷や課題をともに担う神学校となる。

### 目的達成のために

#### (1) 授業は主として「夜間」に行う。

(2) 教室と並行して双方向ライブ及びビデオ通信授業を活用しつつ、人格的交流のある神学教育を推進する。

(3) 公開講座や教会共同受講等を通して、信徒が広く学びに参加できるシステムを提供し、諸教会での学びや研修に仕える。

(4) 教会形成に参加する牧師や主事等によって、現場から神学する活きた神学教育を行う。また、バプテストとしての基盤に立ちつつ、広範な神学教育を提供する為に、教派を超えて牧師、神学者等を招く。

(5) 所在地は交通至便な東京の都心に置く。

2021年1月

## 東京バプテスト神学校 ミッションステートメント説明文

東京バプテスト神学校ミッションステートメント起草委員会

### I) 「序文」解説文～沿革と目的の2つに分けて

#### ・沿革

「東京バプテスト神学校の創設の歴史的経緯については、『東京バプテスト神学校は、1962年に連盟の躍進5カ年運動に呼応する形で、信徒伝道者を養成するために東京地方連合立の「東京バプテスト福音宣教学院」として発足した。2年後には早くも牧師・教会教育主事・教会音楽主事の養成を目指して、現在の名称に改めている。1986年には、北関東・神奈川地方連合も運営に参加、三連合立となった。』(p182、日本バプテスト連盟五十周年史)

上記のように東京バプテスト神学校は連盟の協力伝道の働きの中から生まれた神学校である。そして、連盟の掲げる「伝道者養成」に協力して、多くの教役者も輩出してきている。そして現在も、日本バプテスト連盟と地方連合の諸教会・伝道所・後援会の皆様のお祈りと財政的にも人的にも多大な支援をいただいている。その応答として、神学校は諸教会の課題にタイムリーに対話的に応え、これからも協力伝道を共に担い、イエス・キリストの宣教の業に仕えてゆきたい。

#### ・目的

建学の精神である「バプテストの信仰と理念」とは、「イエス・キリストの十字架と復活への信仰、聖書を唯一の正典とする聖書主義、信仰者のバプテスマ、万人祭司、会衆主義、各個教会主義、政教分離」のバプテスト主義を意味する(参考「連盟発行「教会員手帳」」)

聖書神学・組織神学・歴史神学・実践神学といった基礎的な神学教育だけではなく、人権やハラスメントの防止についても配慮した実践的で隣人愛に根差した教育を心がけるために、「総合的な神学教育に当たる」と記してある。

建学の目的に、「信徒伝道者を養成する」と謳われているように、今日まで、「教会に仕える自立した信徒を養成」と、「教会に奉仕する伝道者養成」を行ってきているので、この2つの目的は、東京バプテスト神学校の特徴として、序文で掲げている。「教会に仕える自立した信徒を養成」と、「教会に奉仕する伝道者養成」のどちらが先か、どちらに重点を置くかという論議もあるが、当神学校が教会の働き人に広く、門戸を開いているという視点からすると、この順番になろう。神学校で学ぶ中で、伝道者としての召しに与る人も起こされることがありうるからである。更に、バプテストはその起源においても本質においても信徒の教会であることは重要である。

### II) 目的と使命

当神学校の目的と使命は、教会を形成する一人一人が、生涯にわたって神学の学びを続け、絶えず信仰を刷新されながら円熟したキリスト者へと成長するように促すことにある。当神学校は、その神学教育を通して、練達した信仰者を養い、教会の働きを担う信徒および牧師を世に送り出し、もって日本バプテ

ト連盟諸教会の成長を促し、協力伝道を推進してゆく。これらを以下の5つに具体化する。

#### (項目1) 広範な分野にわたる神学教育の実施

東京バプテスト神学校は、単に教役者の養成に特化した学びの場のみを提供するのではなく、広くすべての教会奉仕者のための学びの場を開くべきである。それは富士登山に例えるなら、裾野巡りをする人、3合目または5合目まで登る人、8合目から頂上を踏破する人、といった具合に、学生が主からの召命観と自らの関心に沿って幅広く神学の学びを享受することが出来る神学校となることを目指すことを意味する。

そのために、講座の内容を充実させ、組織神学、聖書神学、歴史神学、実践神学の各分野でカリキュラムを充実させ、敷居の低い、取り組みやすいテーマも豊かに盛り込みたい。また今後は現行の教師会を質的に充実させた「教授会」(仮称)を設置、各部門に専任の教授を複数確保すると共に、その中からその部門のコーディネーターとなる担当者の役割を置きたい。なおバプテストの神学校として個の尊厳と多様性を重んじる観点から、神学校においては、多様な神学に接する機会と共に、学ぶ者が生涯に渡って自らの言葉で神学してゆくための基盤となる姿勢を培い、学び方を身につける。

#### (項目2) 練達した信徒、働き人の養成

2005年版ミッションステートメント原案にあった「信徒リーダー」という言葉の概念は各個教会によって異なるものであろう。むしろ、学びの成果が他者に評価される中で、その人は「リーダー」とされてゆくのではないか。そもそも、神学校で学ぶ者に「条件」が必要であろうか。むしろ、神学校は入り口であって、教会の奉仕を担う上で必要な聖書の知識や教義・教理についての理解を深め、自らの信仰を新たにするために、自由に学ぶ場所であってよいはずである。そしてその学びの結果、一人ひとりの賜物によって将来が方向づけられてゆくものでありたい。

一方その反面で、神学は教会のための学問である。従って、神学校で学ぶものはすべて「キリストのしもべ」であり「奉仕者」である。その意味で、神学校はすべての学生がそれぞれの召しにふさわしく「練達した働き人」に育っていく場と機会を提供することがその役割である。この両面を備えている神学校でありたい。

#### (項目3) 牧師養成

近年、献身者そのものの数が減少している。伝道者としてのスピリットの醸成、及びますます複雑化する社会にあってさまざまな分野での実践的な対応力を養うために神学校の果たすべき役割と責任は大きい。そこで、「神学専攻科」での学びを現状の2年から3年に延長したい。とくに牧師を志す者は、オンライン授業だけではなく対面による授業を必ず組み入れ、また教会実習や臨床牧会訓練等を更に充実させる他、最終年には数日間宿泊の研修会を行う機会をも持てるようにしたい。

#### (項目4) 信徒および教役者の継続教育・研修の実施

東京バプテスト神学校は、学生の卒業後についてのフォローもしっかり行う神学校となりたい。牧師の継続教育は連盟宣教研究所の働きであるが、今後は状況と必要に応じて神学校でも一部その任を担う他、信徒及び教役者の継続教育、継続研修の働きをも担う場となってゆきたい。その意味で、九州バプテスト神学校が既に取り組んでおられる「宣教センター」のような受け皿と組織づくりは、当神学校にとっても近い将来必要なヴィジョンである。

### （項目 5）諸教会の協力伝道の推進

3 つの連合に属する諸教会には、それぞれの課題や「奉仕者不足」というような問題もある。また、今後は無牧師の教会が「説教」や「礼典」を、信徒に委託するケースも増えて来ることが予想される。さらにコロナ禍に代表される社会状況によって加速を余儀なくされた結果、「閉鎖」や教会同士の「合同」のような問題も更に身近になろう。当神学校は、この意味でも諸教会の「諸課題対応能力」「危機管理」のための学びの場を、提供してゆく必要を感じている。

## Ⅲ.「東京バプテスト神学校目的達成のために」

項目（1）現代は生活スタイルが多様化している時代である。そのため日中仕事をしている人をはじめ、多くの方が学ぶことができるように、授業は主として「週日の夜間（水土以外）」に行っている。但し教会音楽科は土曜日午前午後、夏期冬期講座は丸 3 日ないし 2 日等、夜間以外の開講授業も実施している。

項目（2）近年著しい I T 技術の進化は社会状況の急速な変化によってますます速度を増している。その技術を積極的に活用し、神学校から遠隔にある人々が学べる環境を提供する。ビデオ通信授業はいつでもどこでも何回も学べる利点があり、学習の機会を保障する。また双方向ライブ授業は質問や意見を相互に交換でき、人格的交流を深めと共に学習意欲を喚起することができる。また学生だけでなく教師も首都圏に限定されず全国的に求めることが可能となる。

項目（3）一講座から学べる聴講生制度もあり、必要な講座を選択して学ぶこともでき、多様なニーズに応えることができる。また、公開講座等を通して継続した学びのプログラムを提供する。そのことによって信徒一人ひとりの主体的な学びと生涯学習を支援する。更には教会共同受講やビデオ、DVD 受講を通して諸教会はそれぞれのニーズに合わせて教会における研修の機会を持つことができる。

項目（4）伝道者養成のため、また本科の学びをさらに深めるために専攻科を設けている。また、現代社会の諸課題を宣教の課題として捉えるため、とりわけ人権教育の充実のため、事例研究、実習など実践的な学びを重視する。またバプテストの基盤を大事にすると共に、多様な神学にも開かれた神学校であるため、教派を超えた教役者、神学者による授業も提供する。尚、伝道者養成のための専攻科は将来的には現在の 2 年制から最低 3 年制に延長し、特に教会実習の延長や臨床牧会訓練等の実地の学びを取り入れてゆきたい。

項目（5）通学が便利だけでなく、情報や各種資源が集中する東京は教派を超えた牧師、神学者等を幅広く招くことが容易である。

以 上

神学校理事会は 2021 年度以降、以上のミッションステートメントが実施されていくよう注視し、必要に応じて絶えずアセスメントしていく責任を負うものとする。その為に早急に 2021 年度より「中長期計画委員会」（仮称）を立ち上げ、各分野における具体的な立案と実行が可能となる準備と立案を行う。